

# 私はいつも明日が好き

1988  
**12**  
No.303

特集／国民年金

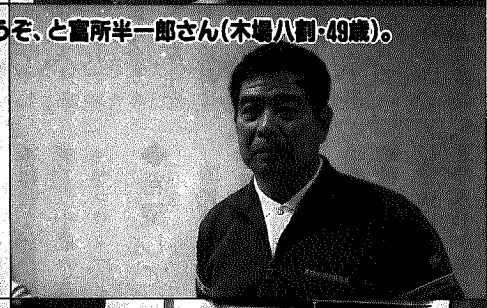
**富樫アイ子さん(山田・36歳)は、今はこれからの生きがいを見つけるための準備期間と言います。**

子供が保育園に行くようになってから、バドミントン・クラブに入りました。健康のためです。友だちもできました。生きがいと言われてもあんまり考えたことはないのですが、子育てが終わったあとのことを考えると、今から準備しておかなくちゃ、と思います。何かやろうと思ってもすぐできるわけじゃないですから。今は、これからの生きがいを見つけるための準備期間でしょうね。



**お年寄りの新しい生きがいにグラウンド・ゴルフをどうぞ、と富所半一郎さん(木場八割・49歳)。**

体育指導員をやって3年。米年あたりから、グラウンド・ゴルフを広めようと、体育指導員みんな考えている。ゲートボールとゴルフを合わせたようなもので、ゲートボールとはまた違ったおもしろさがある。お年寄りの皆さんも、ゲートボールだけでなく、いろいろやった方がいいのではないかな、ということです。生きがいというと、おれは鶏を飼うことが趣味だから、それだね。



**萩野亜衣子さん(板井・39歳)は仕事で忙しい毎日。でも張りつめた暮らしがいいと言います。**

生きがい……母親としては子供ですね。まだまだ趣味とかしてられないです。習字とかパレーをしてたんですが、ちょっと休むともう続かないですね。大正琴をやってみたいとは思っています。勤め(農協)がありますから、仕事優先です。でも、時間があり過ぎたり、休みすぎたりしたらかえってだめかもしれません。気苦労にならない程度に張りつめて暮らすことがいいようですね。



あなたと  
町をつなぐ

広報



**人生にムダなことはない、と言う須摩俊松さん(下山田・60歳)は、子供が生きがいと言います。**

終戦の時、17歳だった。未来の日本を担うのはおれたちだって感じて友だちと議論したものだ。結婚したあとは生きがいなんて考える暇もないくらい忙しかったし、60歳を過ぎると新しいことをやろうとは思わなくなったし、でも、人生にはムダなことはなかったな。若い時は何でもやっておくべきだ。今は子供が生きがいだね。子供ができるのが遅かったから、早く一人前になってほしい。



**生きがいは自分だけでなく他人のためにもなるようなものでないと、小林千栄子さん(上山田)。**

藤芸を始めて一年半、まだ先生から教わるのに夢中なところです。まったく知らないことだったので、自分にできるかどうか試すという意味もあって始めました。趣味としてやっていくうちに、これが生きがいだって言えるようになったらいいな、と思っています。ただ、生きがいというのは自分だけでなく、人のためになるということが、やっぱり大切なんじゃないかな、と思っています。



**子供たちが自分のいい影響を受けたのを見るのがうれしいと話す本間和正さん(中学通り・36歳)。**

今度生まれる三番目の子供の名前を考えているところです。子供たちが、親が手本としてやったことをちゃんとやってくれるのを見る時、一番よかったなあ、と感じます。生きがいはちょっと違うかもしれませんが、老後?年金のことも考えています。子供たちに負担をかけたくないです。前に経理をやったのでわかるのですが、国民年金は私たちの年代が一番割を食うようですね。

